



地域の未利用資源を再資源化して循環し
再生エネルギーとして地域経済を活性化します

株式会社福島商店

渋川市

代表者：福島丘泰 住所：渋川市金井 443-3
設立年月日：1967年8月11日 TEL：0279-22-2948
資本金：1,000万円 Mail：info@fukushima-s.com
従業員数：7人 URL：https://fukushima-s.com



WEB サイト

● 事業者紹介

1965年8月、株式会社法人改組し、木材販売ならびに製材等木材加工販売を主業として事業を拡大。住宅資材全般を扱う総合住宅資材卸業となりました。後に木材乾燥機やモルダール等の木材加工機やおが粉製造機を設備し、木材加工事業の拡大を図りました。近年では木材加工から出るノコくずやカンナくずをカスケード利用の観点から資源化（群馬県産木質ペレットを生産）し、ペレットストーブ群馬として木質ペレット燃料の製造販売やペレットストーブの販売・施工を広めています。

● 経緯・背景

20年ほど前に他産地から、ただ同然のノコくずが群馬県に持ち込まれました。これにより、コストの高い地場の製材工場やおが粉製造業者のおがくずが売れなくなり、行き場をなくしたおがくずは産業廃棄物として費用を負担し、処理せざるを得ない状況になりつつありました。そんな時、木のくずを成型してつくるペレットという燃料（ストーブやボイラー等の加温に使う木質燃料）をつくれれば、行き場をなくしたノコくずやカンナくずが資源になると気づき、木材の生産過程から出るおがくずをペレット燃料に（資源化）しました。

● 具体的な取組や成果

産業廃棄物だったノコくずやカンナくずを燃料として再生 地域の資源を循環させ、再資源化してエネルギーに変換します

当初、行き場をなくした木くずがペレット燃料（資源化）できれば、産業廃棄物になってしまうノコくずやカンナくずが燃料として売れると思い、ペレットの製造にばかり注力していました。しかし、今から15年ほど前につくったペレット燃料は誰が燃料として購入し使ってくれるのか、という疑問に直面しました。今さらながら自分自身、木質ペレット燃料を使ったことがないことに気づき、その品質や販売先を獲得するためにも、木質ペレットを燃料として使う暖房機、ペレットストーブのPRと販売が重要だと思いスタートさせました。

その後、自社のストーブユーザーを確保できたのを機に、2012年より自社製木質ペレットの製造を再開しました。現在は、「群馬しづかわ産木質ペレット」の製造・販売を行うと同時に、ペレットストーブ群馬（ペレットストーブ専門店）を通じて、ストーブの販売・施工およびペレット燃料の販売を行い、カスケード利用の観点からも、未利用のノコくずやカンナくず、木くずの資源化に繋げることができました。

処理に困っていた木材の加工くず、バージンのノコくずやカンナくず、木くずを産業廃棄物ではなく、資源として活かす方法を探る中で、群馬しづかわ産ペレットの製品化や、この燃料を使う専用ストーブの施工・販売という新しいビジネス分野に繋げることができました。

そして、今までの住宅資材販売では、住宅を購入いただいたお客様に対してしばらくの間、販売機会がない狩猟型ビジネスだったのに対し、年間3～4カ月の間、毎年ストー

ブの燃料として購入機会のあるストック型（農耕型）のビジネスシステムにシフトすることもできました。



木材の加工から出たノコくずやカンナくずから生まれた、自社製「群馬しづかわ産木質ペレット」燃料

当社にとってのSDGsビジョン

エネルギーの地産地消で 地域資源を循環させ経済回復

住宅資材事業の中心である木材事業の木材は、もともと再生可能資源です。当社は地域の環境資源である木材を原木（素材）から仕入・加工し、製品化して販売しています。地域にある資源を使い循環させ、製造過程から出る木くずも再資源（ペレット）化してエネルギーに替え、人や地域にやさしいものづくりを心掛けています。

今後の展望と求めるパートナー像

人や地域、環境にやさしい 社会活動で連携を図る

住宅資材を扱う中で、再生可能な地域資源である木材へのこだわりは、木質ペレット等エネルギーの地産地消で地域に貢献し、持続可能な社会の一翼を担う取組です。今後は群馬しづかわ産木質ペレット製品の袋詰め作業を地域の福祉作業所と連携するなど、人や地域、環境に配慮した地域活動を目指します。